新潟県栄養士会2026年度生涯教育実務研修会

〇第2回（福祉事業部）

演　　題：「嚥下と窒息に関する知識と活用」

講　　師：新潟医療センター　歯科医師　道見 登　氏

配信期間：2026年7月16日（木）～7月27日（月）

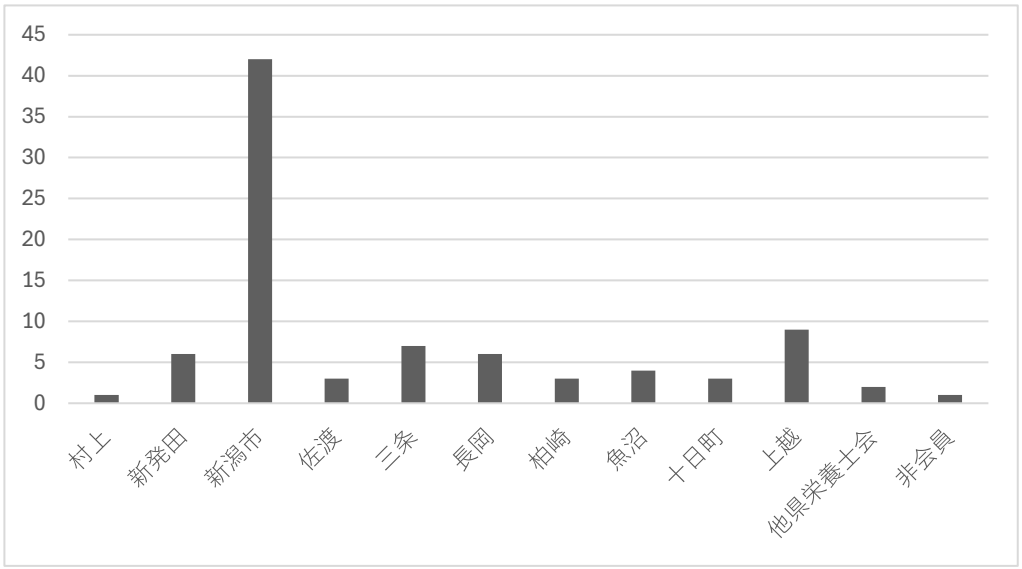
受講者数：102名（再生回数：264回）

【アンケート集計結果】回答者数：87名

〇 所属支部

村上	1
新発田	6
新潟市	42
佐渡	3
三条	7
長岡	6
柏崎	3
魚沼	4
十日町	3
上越	9
他県栄養士会	2
非会員	1

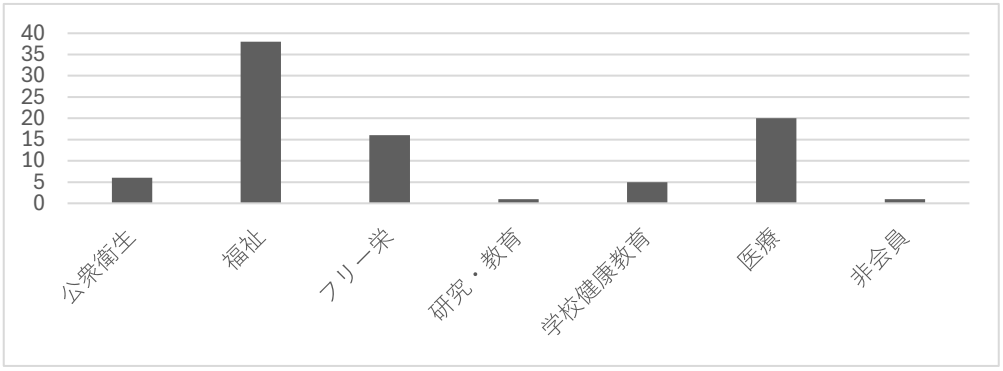
87



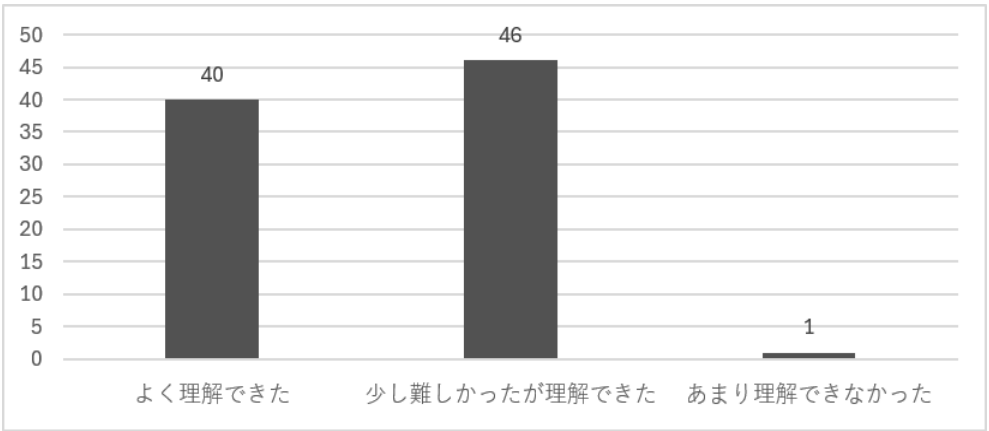
〇職域

公衆衛生	6
福祉	38
フリー栄	16
研究・教育	1
学校健康教育	5
医療	20
非会員	1

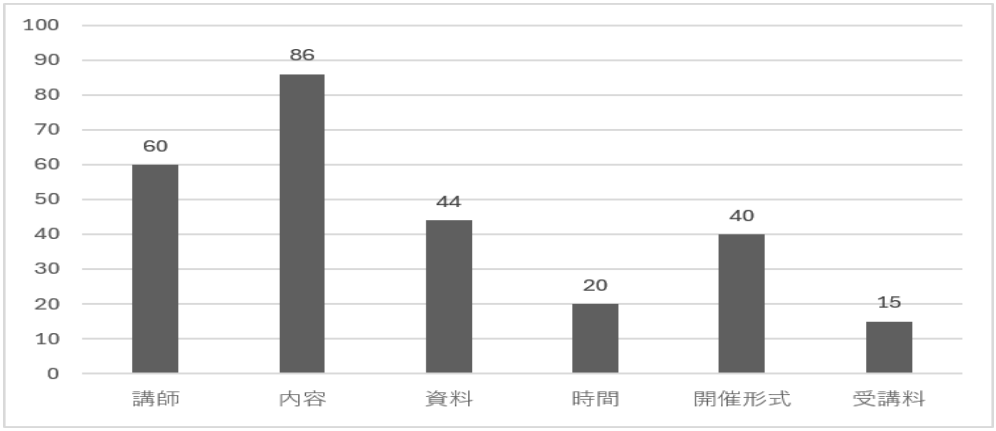
87



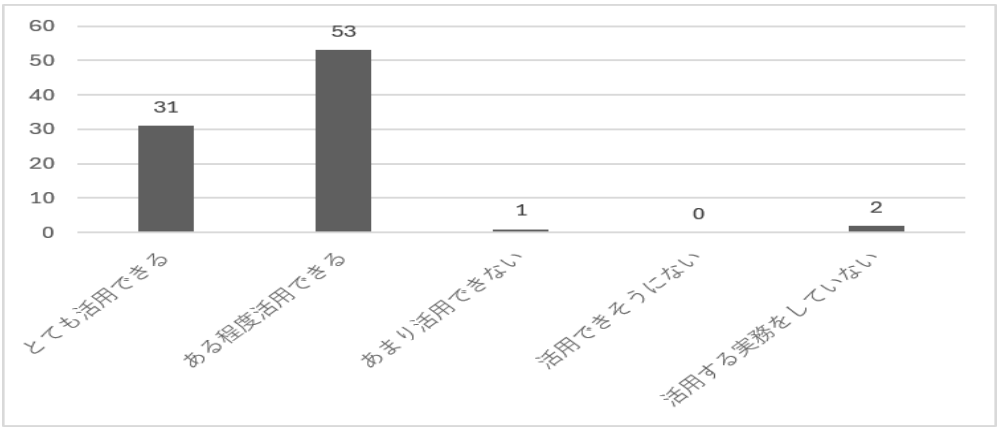
〇研修会の内容について



〇良かった点について（複数回答）



〇実務への活用について



〇実務への活用は「あまり活用できない」「活用できそうにない」の回答理由

・もう少し、子どもと障がい児を絡めた内容があるとありがたかった。

〇講師へ感想

・大変勉強になりました。また機会を作っていただき、障碍児者の対応も深められると嬉しいです。
・VE、VFの映像に加え、二次元、三次元での解剖図にて説明いただきとてもわかりやすかったです。
・今後の嚥下ラウンドに本日勉強させていただいたことを生かしていきたいです。
・勉強になりました。 ありがとうございました。 昔、ボランティアで車いすベッドの入所者の食事を担当した経験を思い出しました。その頃、「先生のお話を聞いていればなあ。」と思いました。
・最初に資料で口腔の把握をしてからの研修は理解しやすくて、とても良かったです
・難しい部分もありましたが、わかりやすくお話をしてくださっていました。
特に姿勢の大切さ、食事の時には足を床につけていることも大切だとわかりました。
・特養勤務です。歯科との連携は歯の治療がメインで嚥下の診断等は出来ていません。嚥下に関する事は施設職員だけの判断で日々対応しています。今回の研修を受け、施設の現状（歯科医師の診断が無い状態で業務を行っている）に怖さを感じました。
県内どの地域でも歯科との連携がスムーズになる事を願います。
・実際のＶＥ・ＶＦを交え、わかりやすく説明をしていただき、ありがとうございました。
・画像・動画を取り入れた講義が、とても分かりやすかった。
・丁寧な説明とVF、VEの画像などの説明も詳しく講義していただき勉強になりました。
・解りやすい説明をありがとうございました。
・映像もあり、わかりやすかったです。ありがとうございました。

・専門用語を理解して先生のお話に付いていくのが大変でした。 日常、歯科衛生士の方ともご一緒することがあります。 口腔、咽頭の分野の用語の習得に励みたいと思いました。
研修会の始めに解剖図の作成は新鮮でした。
・貴重なVF資料が多く使用されており、印象に残る内容でした。
日頃の利用者様の状況を思い浮かべながら視聴できました。
・誤嚥、窒息について丁寧にご解説頂き、ありがとうございました。 年齢別の器官の太さの解説は安全な食事を考える上でとても参考になると思いました。 また、仰臥位や側臥位の食事姿勢については、知らなかった手技なので、具体的な方法を知りたいと思いました。
・いつもありがとうございます。 画像・動画は毎回診ながらカンファしてますが、普段無意識で食べる咀嚼と嚥下が、改めて精巧な機能だと感心し理解を深めることができました。
・学校給食では、もちやうずら卵などが原因となる窒息事故が発生しており、そのたびに「提供すべきではないのではないか」、あるいは「提供する場合には、どのような指導を行えば効果的なのか」と悩んでいました。今回の研修会は高齢者を中心とした内容でしたが、誤嚥が起こる理由やそのメカニズムについて理解を深めることができ、大変勉強になりました。
・映像があったので、非常に分かりやすかったです。
・この度は、大変わかりやすいお話をありがとうございました。先生が講義の中で仰っていました「嚥下を、食塊の位置によって口腔期・咽頭期・食道期と分けることは、実際の食事の場面、特に高齢者ではあまり意味がない」という言葉は特養で勤務する私には納得のいく言葉でした。
食事をする際は姿勢や環境といった準備を整え、適切な食事の形態を選んでいくという事の重要性を再確認させていただきました。
・動画が多く、見応えがあって良かった。
・誤嚥、窒息の基本的な知識を画像とともに学ぶことができとても理解が深まった。
・実際に模式図を書いてみることで理解が深まりました。
・今まで経験不足で嚥下機能に関する知識が乏しかったが、この度の講演で機能や食事の体位を理解することができた。機会がありましたら、再度先生の講義を受講したいです。
口蓋や喉頭蓋を図に表す事により理解できました。
・嚥下をする時の口腔内の動きを詳しく映像を用いて説明をしていただき、納得することができました。
・VE、VFの画像が多数でわかりやすいご講演でした。重力を考えながら、食事姿勢を考えるところもとても参考になりました。ありがとうございました。
・どういう状態の患者に、どのような対応が良いのか分かりやすく教えて頂き、ありがとうございました。
・実際にVE,VFができればしっかりと確認できますが、特養や在宅等で判断できない場合には悩むことがあります。一部の歯科医師しかご対応してくださらない場合が多い。
・嚥下というのは物理学なのだなと感じた。本当は小児の発達的なところも知りたかったけれど、高齢者の方が今はニーズがあると思う。貴重なX線動画資料や人体の構造の資料などをたくさん見せていただきありがとうございました。
・実際に手書きで口腔咽頭の図を描いたことがなかったので、良い経験になりました。
・非常に分かりやすく勉強になりました。精神的栄養も諦めないことについてはハッとさせられました。
・難しい内容でしたが他施設(高齢者)の嚥下の事を学べてよかったです。 ありがとうございました。
・丁寧に教えていただき、ありがとうございました

○講師への質問

・普段、乳幼児の離乳食相談をしているのですが、親がたくさんスプーンに乗せて与えたり、手づかみで食べ物を詰め込む子の相談も多く、むせたり、丸呑みすると相談をうけます。 乳幼児は陰圧にして母乳や哺乳瓶を飲むので口腔内が狭いの聞きますが、どのくらいの大きさや量が適正なのか知りたい。おおよその目安があったら教えて頂けるとありがたいです。

《講師からの回答》

乳幼児の離乳食では、口唇幅に対して3分の2程度のフィーディングスプーンやベビースプーンを用いることが多いと思います。一口量は最初スプーン前方3分の1程度にして、口唇での取り込み動作を習得することが大切です。スプーンを口唇を越えて口腔の中まで入れるのではなく、下唇にそっと触れて上唇が自発的に下りてくるのを待ち、口唇の閉鎖を確認しながらスプーンをゆっくり水平に引き抜くようにします。
慣れてきたらスプーン前方2分の1程度まで増やしていきます。

・残った筋力を活かして食物をどこに流すか？は十分に理解できるのですが「やったことがないので側臥位は怖い」と話すスタッフも少なからずいます。スタッフの理解を得るために効果的な方法はありますでしょうか。

《講師からの回答》

側臥位や仰臥位での食事は、医療・介護にかかわるスタッフだけでなく、ご本人やご家族にも理解されにくいことを考慮する必要があります。当院や私が訪問している施設でも以前はそういった面がありましたが、まずは食事介助しているスタッフに理解していただき、ご本人やご家族に説明できるようにならないといけません。一番効果的なのは、今回の動画のような基本的な知識を得たうえで、実際の患者さんや利用者さんで、VE等の所見を診察医からリアルタイムで解説してもらい、そのうえで姿勢の変化でむせが減った、食事時間が短くなった、といった効果を実感する機会をつくることです。
まずは職員対象の研修会を企画してはいかがでしょうか？

・単なる「刻む」だけの食事形態変化では、逆に良質な咀嚼反応は起きにくいともいわれます。嚥下調整食の再編成時期にあるいま、道見先生の豊富な臨床経験から、刻み食について期待する事などあれば教えてください。

《講師からの回答》

刻み食は、単なる刻むだけで代償できないことがあります。私たちは食品を歯で粉砕すると同時に唾液が分泌され、混和と食塊形成で嚥下に至ります。粉砕が省かれることで、唾液の分泌が不十分になったり、十分に食塊形成できない状態で咽頭に送られ、誤嚥リスクを高めることもあります。刻み食は、単なる細かく刻んだ食品ではなく、唾液の代わりになるようなつなぎやあんが重要ですし、食品も一体化しやすいものを選択することが安全につながります。

・嚥下障害のうち、咽頭の筋力低下はあるが嚥下反射は保たれている、またはその逆、脳梗塞で咽頭麻痺があるのか否かなど食事場面からどのように判別したら良いでしょうか。
テスト方法あれば知りたい.

《講師からの回答》

嚥下そのものが保たれているかは、動画でも触れましたが、下顎から頸部の形態である程度の予想はできます。確認としては空嚥下での喉頭挙上の触診で行います。その際の嚥下音の異常は、舌の押し付け不足や鼻咽腔閉鎖不全を疑います。
声がかすれたり、軟口蓋の形態や発声時の軟口蓋の挙上が左右非対称な場合は咽頭麻痺の可能性を疑います。
食事中に咽頭残留の所見があったら、麻痺なのか、筋力低下なのか、協調性の低下なのか、は他の身体所見とも合わせて推測します。とろみ無し液体で、口腔保持ができて、指示通りに1回の嚥下でむせや嚥下後の声の変化がなければ、惹起性（随意的および反射的）を含め嚥下そのものに問題がない可能性が高いです。
嚥下がOKでも誤嚥しないわけではないことは動画で説明いたしました。

○研修会に対してのご意見

・特養では終末期の方も多く、看取りの段階になると負担軽減を優先させてきました。 精神的栄養について、考えていきたいと思います。
・認定こども園管理栄養士です。資料１が理解しやすかったです。嚥下についての理解が深まりました。ありがとうございました。
・口蓋や咽頭蓋の図はこれまでも見たことのある資料だったが、自分で線を引く作業は初めてで理解につながった。また、症例を踏まえた説明でイメージが湧いた。 何より、先生の本気が伝わってきた。誤嚥のリスクを抱えている高齢者は多く、安全に直結することなので、管理栄養士のスキルとして理解し自分の業務において活かしていくことが必要だと思った。
・最初に資料1に記入することで、しっかりと嚥下のイメージができ研修内容をより深く理解することができました。
・不勉強で部位や専門用語が難しく、すべてを理解することは出来ませんでしたが、嚥下の姿勢や物性の大きさや粘度が大きく関わっていることを認識しました。 乳幼児の嚥下にも通じるところも多かったので、今後に生かしたいと思います。
・保育園勤務です。保育園児にも共通することがあったので今後職場で活用させていただきます。ありがとうございました。
・嚥下については毎年研修を受けていますが、今回はとても難しく感じました。
・とても分かりやすい内容で、実務に携わっていないものでも理解することができました。言葉やビデオなどでその場ですぐにはよく分からなかったことも、見返すことで知識を得ることができたと思います。リアルタイムの研修では、見直すことができないので、この形式での研修はとてもありがたいです。
・飲み込んだときの様子を、映像で見ることができてよかった。
・食事時の姿勢について実際のVFの動画と併せて説明してもらえたので分かりやすかったです。
・多数のリアルな映像を視聴でき、理解につながり大変貴重な講義でした。道見先生、ありがとうございました。
・とても内容が濃かったので、時間が足りなかったと感じました。
・とてもわかりやすく、自分で記入した資料1は、今後も復習し使用していこうと思います。イメージトレーニングになりました。他の資料も何回か振り返り、実務に活かします。
・嚥下は何度勉強しても新たな学びがあり、様々な経験が必要だと感じる分野です。基礎知識から様々な事例を確認することができました。ありがとうございました！
・実務から培われた内容で、とても分かりやすかった。 VFでもVEでも気を付けてみるべきところをマーキングしてくれていたので理解しやすかった。 ポジショニング別の映像も理解につながった。
・とても良かったです。
・追加資料をメールで頂きましたが、携帯電話だったため印刷がうまくできませんでした。もし可能でしたら、受講するページにも追加資料がダウンロードできるようにしていただけるとありがたいです。
・先生のご経験から、嚥下について具体的な話を聞けたこと、VE,VFの動画が見れたことが大変参考になった。認知機能低下が嚥下機能にも関わることを改めて理解できた。
・VE.VFの機会がないため、口から咽頭までを細やかに想像するしかなく、これでいいのか？と疑問に思いながら対応していました。今回貴重な資料を数多く提示いただき、実際の食物の流れが十分理解できました。誤嚥という事態を細分化して検証し、患者利用者の安全な経口摂取に今後も寄与していきます。
・栄養士会の動画配信は職場のセキュリティで制限されるので、YouTube配信もあると良い。

・とても分かりやすく拝見させていただきました。ある程度の段階になると安全性を重視し、ご利用者の好みは二の次になってしまう傾向にあります。また、人員不足により介助が必要な方にしっかりついて差し上げられない事もあります。本来の食事のあり方を考える良い機会になりました。ありがとうございました。
・嚥下についてよくわかりました。
・窒息について実際の臨床の様子と合わせて学ぶことができたこと、高齢者だけでなく障害のある場合や小児も含めて説明いただいたことから、これまであいまいな理解にしていた部分を学べとてもよい研修でした。
・この度の講演の最後に触れられていたような道見 先生のご経験された事例を ご聴講してみたいと思いました。
・少し専門的で難しいところもありましたが、高齢者現場での仕事ではありませんが、今後の仕事の参考にしていきたいと思います。
・先生の嚥下についての映像を見せてもらい、体の中ではこのように誤嚥しているんだということがとても分かりやすかった。
・紙に嚥下関連筋を描くことで構造が理解しやすかったです。 誤嚥や窒息の予防には食事形態や食支援だけでなく、姿勢も重要なことがわかりました。
・今回の研修会は高齢者対象のお話が主でしたが、内容は大変濃く、学びは深かったです。
ただ、生涯教育案内のおすすめポイントに記載されていた児童についての内容がもう少し聞けるのかと思い研修会を申込んだこともありましたので、もう少しその内容を聞きたかったと思いました。
高齢者の摂食嚥下についてに講義内容を絞ってもよかったように思います。
・何回も見返せるのでオンライン研修だとありがたい
・初めてマナブルでのオンデマンド研修を受けましたが、途中で端末を変えてしまうと別の端末で見た履歴が反映されないようで、一度見たところを二倍速で飛ばしていく方法しかありませんでした。
これからマナブルで研修を受けるにあたって、気をつけないといけないと思いました。
・病院などではVF、VEが当たり前のように活用されていることが少しうらやましいです。私の勤める老健では、協力歯科医はいますが、歯科往診で手一杯で嚥下機能までは見ていただけない実情があります。食事の観察からだけではなかなか難しい場面が多いです。病院の在り方を知ることができて良かったです。ありがとうございました。
・実習があるとよりわかりやすかったと思う。
・多くの画像・症例から学びなおすことができ、大変勉強になりました。 ありがとうございました。

〇講演会について・今後の講演会への希望

・興味がある講演が多く複数受講したいのですが、もう少し受講料が安いとありがたいです。
・最近のＳＮＳなどで、鉄分やたんぱく質が、乳幼児の落ち着きや癇癪の少なさに大きな影響を与えると、沢山の情報が発信されていますが、専門の先生から詳しくお話をお聞きしたいです。 また、乳幼児だけでなく、大人のうつにも効果があると言われているので、乳幼児から大人まで、どんな効果が期待されるか知りたいです。
・毎年変化している情報がある食物アレルギー最新知識をしりたいです。
・今年度から、配信日数が増えて繰り返し見返しみる時間が増えて大変助かります。今回の内容はもっともっと 繰り返し学びたい理解したい内容でしたが、なかなか時間が作れず、配信日程が1ケ月欲

しいと思いました。
・食事形態だけでなく、食事介助や姿勢、ミールラウンドの視点についての講義もあるとよいと思いました。
・障害者の食事の特性や支援方法など具体例も交えながら教えていただきたい。
・経口維持加算やミールラウンドに関する研修
・小児（障害児、重症心身障害児）の摂食、窒息、食事形態について
・嚥下調整食1jの調理(おいしさと栄養価を保ちつつ付着性を下げる)
・オンデマンドはありがたいです。
・最新の話題があればうれしい。
・多職種連携で関わりのある職種の視点について学びたい。
・業務に生かせる最新情報を希望します。
・小児・学童の摂食・嚥下機能について
・認知症の方への歯科医師からの食形態提案
・2度の週末にわたって開催していただき大変感謝いたします。見逃さずに済みました。
・窒息のリスクがある中で、本人様の意向を尊重して望む食事を提供した事例（提供まで～具体的な調理内容～結果）をまとめたものを聴きたい
・最近話題の口腔機能発達不全症か食物アレルギーの最新の情報などが学べたらありがたいです。
・精神疾患をもつ対象者への栄養指導で注意するべき点など